



KANSAI UNIVERSITY



# CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

# Newsletter



関西大学 教育開発支援センター  
ニュースレター

March 2020

vol. 32



## 中動態としてのアクティブ・ラーニング

教育推進部教授 三浦 真琴



新学習指導要領では「主体的対話的で深い学び」が小・中学校学習指導の要点として示された。高等教育界に対して示された「能動的学修」より平明で分かりやすい。そこには「これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はない」と付記されているが、これは高等教育界における混乱を暗示している。高等教育界では2012年の中教審答申により受動的な教育から主体的な学びへの転換を図る必要が謳われた。この転換を学生の立場になって「受動から能動へ」という態の移行として捉えるのは容易であるが、問題は教師の態である。

海外では能動的学習は「学生をなんらかの作業に参加させ、しかも自身が遂行している作業の意味や目的について考えるように促す教育的な活動」と定義された。教育的活動とは即ち教師の活動の謂いである。残念なことに、この定義はわが国では「学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること」と再構成され、教師がアクティブ・ラーニングの

主語（しかも使役者）として位置付けられてしまった。

高等学校を卒業するまで、教師の言うことに耳を澄ませ、板書を丁寧に筆写し、試験に出るポイントを覚えるように指導されてきた青年が、大学に入学した途端、主体的に学べと言われ、受動と能動とのギャップに戸惑うという話はしばしば耳朶に触れる。この学生の混乱は、教師は主体的に学べと言っているのに、その教師によってある物事を行わされ、行わされていることについて考えさせられるという態の矛盾によるものであったり、主体的に学べと言われるだけで、何も支援されない放任のせいであったりする。放任は使役態の一つであるから、混乱はいずれも態に関わるものである。

この問題を解決するためには受動でも能動でもない態、あるいはそのどちらでもあるような態を考えるのがよい。「援助をする人がもっとも援助をうける」という援助者療養原理を「学習の支援をする人がもっとも教育的活動への支援を受ける」

と言い換えると、能動と受動とを対立項としてではなく円環するものとして捉えることができる。教育的活動への支援とは、例えばよりよい学習支援に関する発想や確信を学習者から得るとのことである。しかし学習支援はそのような発想や確信を得ることを意図してなされるものではない。かかる発想や確信は気が付くとなくな得られているものなのである。このように、ある行為の結果がその意図なきままに行方者のためになっているという状態は「中動態」と呼ばれる。

学生にとっても気が付くとなくな主体的な学習ができるようになっていくという状態が自然であり、望ましい。学生を中動態へと誘うためには、学生が支援されていると意識しないように配慮し、何気ない一言、さりげない所作-「そっと手を添え、じっと待つ」こと-が必要であろう。学生と教師が共に中動態に身を置いたとき、アクティブ・ラーニングは自然に展開し、深化していく、論者はその可能性を予感している。

## フォーラム・セミナー報告

## 第22回 関西大学FDフォーラム

## 「大学におけるライティング支援—高大接続で考えるライティング力の涵養—」を開催しました

日程：2019年12月14日(土)

場所：千里山キャンパス第2学舎2号館C303教室

ライティングセンターを設置する大学が増え、学生の書く力を育むための取り組みが盛んに行われています。中等教育においても新学習指導要領にて、言語能力の確実な育成を目指し、各教科等における言語活動(自らの考えを表現して議論すること、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめることなど)を充実させることが改定のポイントとして提示されています。このような状況に鑑み、今後、高等教育ではライティング教育・学習支援をどう推進し、学生の書く力を育み、高大接続を促すことが望ましいのか検討する機会を設けました。

まずは、森朋子(関西大学教育推進部教授)より探求学習に焦点を当てた高校での取り組みについて話を伺いました。事例報告は、飯野朋美氏(津田塾大学ライティングセンター特任講師)により、津田塾大学における英語ライティングや日本語

アカデミック・ライティングに関する事例を報告いただきました。続けて、岩崎千晶(関西大学教育推進部准教授)、多田泰紘(関西大学教育推進部特別任命助教)よりeラーニングや相談履歴システムの分析などICTを活用したライティング力を育む学習支援環境のデザインに関する報告がありました。

その後、トークセッションを実施し、高校で求められているライティング力は大学と同じか? 探究で必要になるライティング力はどのようなものか? 大学では初年次生が身につけているライティング力はどのようなものか? 高校ではどんな方法でライティングを教えられるか?

等について意見交換がなされました。

高校の探究で学んできたことを大学でどう活かせるか、大学は高校にどう貢献できるのかに関して意見を交わることができた点が収穫であったと考えます。アンケート結果によるセミナーの参考に関しても概ね好評価を得ることができました。

(教育推進部准教授 岩崎千晶)



トークセッションの様子

## 教職員・学生によるSD研修

## 「関西大学×SDGs持続可能な開発目標のために関大としてできること」を開催しました

日程：2019年10月25日(金)、11月8日(金)、11月22日(金)、12月6日(金)

場所：千里山キャンパス総合図書館ラーニング・commons ワークショップ・エリア、他

10月25日(金)～12月6日(金)、2019年度SD研修を開催しました。SD研修は、教職員そして学生が連携してこれから取り組むべき課題を発見し、社会の変革に対応しながら、時代に即した教育を展開できる能力を育成することを目的とし、2017年度から実施しています。今年度のSD研修は、SDGsをテーマに【教員】【職員】【学生】がそれぞれの立場から、持続可能な世界を実現するための大学の在り方について議論するPBL型ワークショップ(全4回)として開催しました。3回のワークショップでは、カードゲームやシンキングツールを活用しSDGsへの理解を深め、最終課題発表会では教職員で構成された8チームが「持続可能な開発目標の

ために関大としてできること」をテーマに、ポスター形式でそれぞれのアクションプランを発表しました。なかでも、本学でのブルーシーフードの商品化を掲げるプラン「ブルーシーフードを知らう!」と、キャンパス内のマイストロー利用率増加を目

標とするプラン「関大×マイストロー」には、その独自性と具体性を評し、奥和義副学長(政策創造学部教授)からBest SDGs企画賞が贈られました。

(教育推進部教授 山本敏幸)



最終課題発表会でのポスターセッションの様子



Best SDGs企画賞の授与

## 共通教養科目「プロジェクト学習1」合同発表会を実施しました

日程：2020年1月10日(金)  
場所：千里山キャンパス総合図書館ラーニング・コモンズワークショップ・エリア

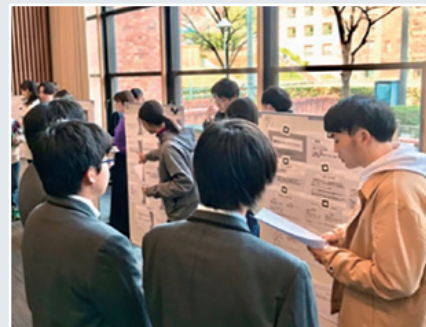
1月10日(金)、千里山キャンパスにてプロジェクト学習1の学修成果発表会を行いました。本発表会は、本学が掲げる「考動力」の育成と共に、様々な授業や活動の魅力を高校生に伝えることを目的としました。

発表には17グループ、約50名の学生が参加し、発表見学に訪れた高校生約30名に向けてポスター発表を行いました。学生は「発表の準備を通して、テーマ内容を深く学べた」と振り返り、高校生も「普段は考えないことを知るきっかけとなった」などと、学生と交流する中で大学

の授業内容を感じられたようでした。今後も本学では、「考動力」の育成を図っていきます。



会場の様子



ポスター発表をする学生

(教育推進部教授 森朋子、  
共通教養科目アドバイザースタッフ  
塩野綾香)

## 関西大学北陽高等学校との連携講座「ノートテイキング講座」を実施しました

日程：2020年1月22日(水)  
場所：千里山キャンパス第2学舎4号館F401教室

1月22日(水)千里山キャンパスにて、教育推進部と関西大学北陽高等学校が連携し「ノートテイキング講座」を実施しました。

本連携講座は、北陽高校の生徒が入学前に大学の授業におけるノートテイキングの重要性について理解し、効果的なノートテイキングスキルを身に着けることで、大学での学習へスムーズに移行できるようにすることを目的として開催しました。

参加したのは本学進学予定の3年生約260名の生徒です。90分間の講座では、藤田里実アカデミック・アドバイザーが「レポートの書き方」に関する模擬授業を実施し、生徒は実際にノートテイキングをすることで効率的にノートを取るための練習を行いました。

(ライティングラボ アカデミック・アドバイザー  
藤田里実)



ノートテイキングの実践練習をする様子

## 大学教育再生加速プログラム(AP)事業「内部・外部評価委員会」を開催しました

日程：2020年1月24日(金)  
場所：千里山キャンパス第2学舎2号館共通会議室2

1月24日(金)、千里山キャンパスにてAP事業「内部・外部評価委員会」を開催しました。取組6年目となる今年度は、最終年度であるため、これまでの活動の全体概要を説明したのち、テーマI(アクティブ・ラーニング)およびテーマII(学修成果の可視化)に関して、①6年間の取組成果とその波及、②顕在化した課題への対応、③期間終了後の継続性や発展性、をテーマに委員の方々に報告をしました。

上記の報告に対し、委員からは、順調に進捗している点や課題、AP事業終了後に期待していること等について、貴重な意見・講評をいただきました。

最後に、良永康平副学長から総評と評価実施に対する委員の方々への謝辞をいただき閉会となりました。

今回いただいた意見や指摘を活かし、補助期間終了後も本学の教育の質的保証を高める取組にさらに尽力してまいります。

(教育開発支援室 土井健嗣)



内部・外部評価委員会の様子

教育開発支援センターからのお知らせ

「関西大学シラバスガイド」のご紹介

この度、教育開発支援センターでは「関西大学シラバスガイド」を公開しました。  
このガイドは、関西大学で開講される全ての授業について、シラバスに記載する必

要がある項目及びその記載内容・方法について示すとともに、「授業外学習を促すコツ」や「アクティブ・ラーニングの推進」、「教育支援ツール紹介」など、学生の学び

を促すためのヒントをまとめたものです。シラバスを新規作成する際、また現在のシラバスを見直す際にぜひご一読ください。  
(教育開発支援室 土井健嗣)

【掲載内容】

- シラバスとは／シラバス作成のメリット／
- 簡単! シラバスの入稿方法／教育のPDCAとシラバス作成の関係性／
- シラバス項目／シラバス記入例／シラバスサンプル
- TOPIC① 1つの授業と「学部・研究科等の教育目標」をつなぐシラバス
- TOPIC② 授業時間外学習を促すコツ
- TOPIC③ アクティブラーニングの推進
- TOPIC④ シラバス上の成績評価方法のプルダウンとの関係
- TOPIC⑤ 教育支援ツール紹介
- TOPIC⑥ 「ルーブリックの使い方ガイド」の閲覧・入手
- TOPIC⑦ 学部学生の日本語の文章作成をサポートする「ライティングラボ」
- TOPIC⑧ 「授業評価アンケート」から学習成果を問う「授業アンケート」へ



「関西大学シラバスガイド」はこちらからダウンロードできます。

[www.kansai-u.ac.jp/ctl/activity/book.html](http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/activity/book.html)



(送付を希望される場合は、教育開発支援センターまでご連絡ください)

書籍紹介

大学のゼミから広がるキャリア 構成主義に基づく「自分探し」の学習環境デザイン

関西大学総合情報学部久保田賢一名誉教授によるゼミ教育を通して、学生たちが何をどう学び、どのようなキャリアを選択していったのか、23年間に及ぶゼミ教育の記録とその後の成長・キャリアを紹介することから、ゼミにおけるキャリア教育の在り方を探る内容となっている。久保田教授は構成主義の立場からゼミ教育を実施しているが、その教育を受けた卒業生は、大学教員、医師、歯科医、開発コンサルタント、教諭、映像ディレクター等となり、それぞれの人生を歩んでいる。卒業生が著者となり、学生時代を振り返り、どのようにキャリ

アについて考えて、行動してきたのかをライフストーリー形式で紹介している。自分がやりたいことや生き方について考える本であり、悩みや自分の壁を乗り越えるためのアドバイスも提供している。大学生やゼミ教育を担当している教員に読んでいただきたい一冊。

(教育推進部准教授 岩崎千晶)

『大学のゼミから広がるキャリア  
—構成主義に基づく  
「自分探し」の学習環境デザイン—  
久保田賢一(監修)  
山本 良太(編著) 岩崎 千晶(編著)  
岸 磨貴子(編著)  
A5判、272頁 定価 本体2,200円+税(北大路書房)



From CTL事務局

昨年春、私は新規事務職員として入職した。授業支援グループに配属され授業運営に携わることができ、目まぐるしくも充実した社会人生活を送っている。入職して半年が経った頃、授業支援ス

テーションに一人で勤務中、留学生が窓口に来てくれた。英語で依頼をしてきた留学生に対して私が片言の英語で対応すると、留学生は理解し無事に手続きを完了することができた。英語力に自信はなかったものの、この体験は私の一つの自信となるとともに、言語の壁は

あっても学生の相談に耳を傾け、コミュニケーションを図る姿勢を持つことの大切さを再確認することができた。様々な言語・文化圏からの学生に対して、常に親切で丁寧な対応ができる授業支援ステーションを目指し、仕事に励んでいきたい。(亮)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514  
[www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html](http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html)

発行日/2020年3月23日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター